



共に向上

令和6年1月9日
岐阜市立島中学校

多様性を受け入れ、お子さんに合った支援を ～ニューロダイバーシティの視点で～

「ニューロダイバーシティ」とは、neuro(脳・神経)+diversity(多様性)といった二つの言葉をつないだ合成語で、脳や神経、それに由来する個人レベルでの様々な特性の違いを多様性と捉えて相互に尊重し、それらの違いを社会の中で活かしていこうという考え方です。

このように、その人の内側に存在する様々な特性を善し悪しの評価抜きに理解し、特性に合った環境を提供すること、もしくは、自分でその環境を見出したり、作りだしたりできるようになってもらう支援が、これからの学校に求められていると考えています。

こうした考え方は、不登校の例にも当てはめて考えることができます。

2022年度の小中学校における不登校者数は、過去最高の29万9048人となったことが、文科省の調査で明らかとなりました。その内、中学生は19万3936人(前年度比3万494人増)で、在籍生徒数の6.0%(約17人に1人)、クラスに2人程度は不登校の生徒が存在することになります。

実際、不登校の理由、別室で過ごす生徒の理由は様々です。それらの理由を、その子の性格や特性と考えたときに、その子に合った支援をしていくことは、その子の将来を明るくし、生きやすさにつながるはずです。

義務教育は、よい意味で平等で均一化されていて、それが日本の学校教育の良さと捉えられていました。その反面、様々な性格や特性をもった子にとっては、難しい状況もあります。しかし学校は、自分と考えが違う子も、合わない子も、優しい子も、いろんな子がいて、その中で、自分と違う考えを持つ友達とも対話し、自分を磨くことができる場です。そして、そんな子たちとも一緒になって、みんなで何かすることがこれから先の人生を生きていくのに役立つ自己肯定感や自尊感情を育む体験になります。

「不登校」という言葉がニュースや新聞で多く取り扱われるようになった今、お子さんがその立場になると「まさか自分の子が…」「どうして自分の子が…」と、動揺したり、悩んだりしてしまうのは当然です。出口の見えないトンネルの中をさまよっているようで、焦り、怒り、悲しみなどの負のスパイラルに陥る人もいるかと思います。しかし、出口はきっと見つかります。

大切なことは、現状を家庭や個人で抱え込まないことです。学校の職員、専門機関、医療関係者、とにかく色々な人に相談することが解決の糸口になります。

島中学校では、不登校の相談を、学級担任や学年主任をはじめ、スクールカウンセラー、スクール相談員、ほほえみ相談員、あすなる教室担当、不登校コーディネータと複数人で対応しています。また岐阜市や県の機関には、より専門的な機関もあり、学校と一緒に相談に応じただけです。いつでもご相談ください。お子さんに合った支援の方法を一緒に見つけていきましょう。

不登校コーディネータ 教頭 小川 竜英

【学校の教育目標】 志をもち 共に向上する

○「読書習慣を高めたい」という図書委員長の思い

先日、いつも以上に図書館が賑わっていました。多くの生徒が「福袋」を目当てに、図書館を訪れていました。図書館で「福袋」とはいったい？それは、図書委員たちの「色々な本を読んでほしい」という思いが込められた催し物でした。福袋には、中身が見えないように3～5冊の本が入れられ、袋の表には、「文学」「科学」「歴史」などと本のジャンルだけが書かれていました。

図書委員長は、「色々な本を読んでほしい。いつもと違ったジャンルの本を読むことで、読書習慣を高めてほしい。」「今年は、本を入れる袋もきれいに飾って、興味をもってもらえるようにしました。」と話してくれました。



○ 合唱に挑戦！精一杯の歌声を響かせた島フェス

11月29日（水）、文化的行事（Shima Fes：島フェス）を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度まで手拍子などでリズムを表現するリズムアンサンブルを行ってききましたが、今年は全学級が合唱を披露しました。学級で曲やパートを決め、練習や他学年との交流を行ってききました。久しぶりに取り組む合唱は、なかなか思うようにいかず苦労の連続でした。しかし、どの学級も指揮者に集中し、美しいハーモニーを響かせ、短い取組期間でしたが、精一杯の合唱を発表することができました。歌うことよさ、仲間と一緒に声と思いを合わせることよさを体験することができました。



○ 岐阜県ホストタウン事業 職業講話と車いすバスケット体験

11月30日（木）に、2年生を対象とした職業講話と車いすバスケットボール体験を行いました。講師に、養老町にある車いす製作業界シェア最大手の松永製作所の方と女子車いすバスケットボール日本代表の網本麻里選手にご来校いただき、講話と体験会を行っていただきました。

職業講話では、ひとつの車いすを使う人の思いに合わせて手作業で仕上げる製作者のこだわりから、仕事に取り組む責任感や物づくりの楽しさを感じ取ることができました。また体験会では、競技用車いすの操作を体験したり、実際に車いすバスケットボールの試合を先生チームや学級対抗で行ったりしました。

こうした活動を通して、自他の人権を知ると同時に、それぞれの違いを認め合い、支え合うことが、公正で公平な社会、安全で安心できる社会をつくるための大きな力となることを学んでほしいと考えています。



○ インフルエンザ予防に努めましょう！

昨年は11月からインフルエンザが流行し始め、12月には2年生の3クラスが学級閉鎖となりました。

冬休み中は、人ごみに出かける機会も多く、長期休業明けは、再びインフルエンザへの感染増加が心配されます。こまめな換気や丁寧な手洗い、手指消毒の実施、体調が心配な場合はマスクを着用するなど、新しい年を健康で過ごせるよう十分な予防に努めましょう。

